

島根あさひ社会復帰促進センター盲導犬パピー育成プログラム

概要

- 生後1歳までの子犬（パピー）を8か月間受刑者が養育し、基本的な社会化訓練を実施
 - ・ 受刑者は、24時間生活を共にし、子犬を養育
 - ・ 第13期（令和4年9月終了）までに305名の受刑者が参加し、令和5年7月18日現在、74頭のパピーを育成
 - ・ 現在、第14期（令和4年10月～同5年9月）を実施中。
 - ・ 令和5年7月18日現在、19頭が盲導犬となっている。
- 受刑者と地域のボランティア（ウィークド・パピー・ウォーカー）が協力
 - ・ 平日は受刑者が飼育、週末は地域のボランティア家族が飼育
- (公財)日本盲導犬協会の協力を得て実施
- 選定基準（希望制）
 - ・ 罪名や生活歴に生命に関わる行為やDV、児童虐待、動物虐待等がなく、動物アレルギーがなく、社会貢献に関心をもつ者

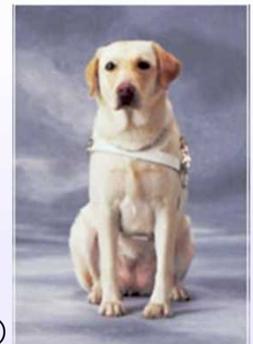


プログラムの効果

- 誰かの役に立っているという気持ちから自己肯定感が向上
- 非言語的コミュニケーションによって、自他を理解し、他人を思いやる心が醸成
- 盲導犬候補の子犬を預かることから、責任感が向上
- 思いどおりにならない相手との生活により、忍耐力が向上し、攻撃的傾向が低下
- 対人関係や犯罪に結びつきやすい考え方など本人の問題が改善

日本における盲導犬の状況

- 視覚障害者数
全国の視覚障害者は、**約31万人**
このうち、障害の程度が最も重い1級の人は**約119,000人**
(平成28年厚生労働省調査)
- 盲導犬を必要とする方の数
約3,000名
(2011年 全国盲導犬施設連合会と日本盲導犬協会による推計調査)
- 盲導犬の数
働く盲導犬は**836頭** (令和5年 日本盲人社会福祉施設協議会まとめ)



米国における先行事例

- ニューヨーク州の刑務所で活動している団体「Puppies Behind Bars」によって1997年から受刑者にパピーの育成を任せるプログラムを開始
- 刑務官とPBBのスタッフによって選定された受刑者が、盲導犬育成学校から託された生後8週間のパピーを24か月間養育